

委員会名	2023年度第6回 生産技術委員会
開催日時	2024年1月19日 16:00-17:30
開催場所	出光興産(Zoom ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地)吉岡委員長、山崎副委員長、桐山、久々宇、多田、飯野、舟橋 (オンライン)矢島、中田、古井、上野、宮田、安達、荒木、佐藤、中島
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動収支報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 収入：300,000円</li> <li>➢ 支出：237,740円 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 春季講演会懇親会：66,000円</li> <li>◇ 九州大学交流会：77,520円</li> <li>◇ 京都大学交流会：74,320円</li> <li>◇ Zoom年会費：15,477円</li> <li>◇ 備品類・雑費：4,423円</li> </ul> </li> <li>➢ 残額：62,260円</li> </ul> </li> </ul> <p>2. 幹事会報告</p> <p>宮田委員より第9回、第10回の幹事会の報告がなされた。</p> <p>議題1. 第88期第8回幹事会議事録が承認された</p> <p>議題2. 会員の異動（令和5年11月1日～11月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本CCS調査（株）が賛助会員となった</li> </ul> <p>議題3. 令和5年度10月次一般会計収支報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人会費の回収率は87%となり順調。幹事の方々の所属先にて回収の後押しをお願いしたい。</li> <li>・海外赴任となった際、支払いできず滞納となるケースがある。滞納されるよりも退会の方が健全であり、各会社において注意喚起をお願いしたい。</li> </ul> <p>議題4. 令和5年度秋季講演会・特別見学会（地質編）の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加登録者231名、大会参加費収入が690,00円となり、結果として収支は240,105円の黒字となった。</li> </ul> <p>〈探鉱技術委員会による特別見学会の報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年以来、4年ぶりの開催</li> <li>・見学会は40名を見込んだものの、実際の参加者は16名のみ。</li> <li>・参加者によるアンケート結果の共有。</li> <li>・参加者が少なかった要因として教育機関に対する周知不足が挙げられ、今後の対策として大学の先生に直接働きかけていきたい。また11月上旬の平日開催もネックとなった可能性有り、変更できるか検討する。</li> </ul> <p>議題5. 将来像検討会議について（継続）</p> <p>リコチャレ参画：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度春季講演会中に業界で活躍する女性社員および業界各社の人事部を交え、情報発信・相談ブースの設置や業界で活躍する女性社員による座談会などを企画・実施する。</li> </ul> <p>石油版資源・素材塾：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月12日、石油開発業界に近い関係にある大学教授と意見交換会を開催予定。</li> <li>・意見交換会の議題は、専門職大学院構想、石油開発夏冬の学校の現行と今後、エネキャリの紹介、他分野(資源素材学会)での取り組み状況など。</li> </ul> <p>法人化：</p>

・法人化することにより事務作業が増加するため業務効率化を図る必要がある。

#### 議題 6. 24 年度総会・90 周年記念式典の開催の件

・協会から賛助会員等に、周年行事への寄付金をお願いする。周年行事として 2 つの候補(CCS 特集号の編纂、用語辞典の改訂)があり費用を見積もった上で速やかに絞り込み寄付金額の算定を行う。石油技術協会基金(約 620 万円)や一般会計の繰越金(2250 万円)が残っているものの、今後見込まれる支出(法人化のための業務効率化、事務業務委託費の値上げ)のため、そのまま保有しておく。

#### 議題 7. 会誌第 89 巻表紙の件

CCS プロジェクトに関する写真が採用された。

#### 第 10 回幹事会

議題 1. 第 88 期第 9 回幹事会議事録の確認

議題 2. 会員の異動 (令和 5 年 12 月 1 日～12 月 31 日)

CMG の賛助会員への加入

議題 3. 令和 5 年度第 3 四半期一般会計収支報告

ほとんど予算通りでここまで来ている。滞納分は 99.6%達成となり、ほとんど徴収が完了した。

収支は黒字である。

監査を受け、結果は「健全」となった。

議題 4. 令和 5 年度秋季講演会報告

アンケートの回答者が少なかったため、再度実施した。

海外の CCS の法令などが興味深かったという結果になった。

参加費は適切という回答。

オンデマンドの配信については好評。実開催のみでよいという回答はなかった

議題 5. 将来像検討会議について (継続)

① リコチャレ参画：10 月 25 日の理事会にて

・「ダイバーシティ・マネジメントの実践」の一環として、石油・天然ガス開発および CCS 関連等の技術分野における女性の活躍促進に取り組むチームを設立：リーダー：小寺会長、チーム名：女性活躍促進チーム、設立日：令和 5 年 10 月 25 日。メンバーを募集。

内閣府男女共同参画局リコチャレ応援団体参加手続き、春季講演会期間中に人事担当者と女子学生によりセッションを企画

② 石油版資源・素材塾：

令和 5 年 8 月 31 日に栗原先生、村田先生、松島先生との議論内容を説明。

「国際的に通用する技術者が求められている」との点について、

12 月 12 日 (火) に意見交換会を実施。長縄先生、松島先生、亀尾先生、栗田先生、村田先生、山田先生、菅井先生、小寺会長、山口で以下のアジェンダによる意見交換会を実施し、現行実施中の取組み (学生主催「石油開発夏・冬の学校」、経産省「エネキャリ」、九大・北大「SREC」等)を確認するとともに、ニーズと技協が行う意義についてアカデミアから意見を得た。

1 月下旬から 2 月上旬に再度実施予定。

③ 法人化：

本協会は設立以来任意団体として活動してきたが、石油天然ガス鉱業技術を基に CCS によりこれまでの業界の範囲を超えて活動範囲を拡げる中、法人化

による財務報告の義務を果たし社会的信用と認知度を向上させることは必須である。目指す法人形態は、非営利型一般社団法人とする。公益社団法人は業務量の負荷が大きく、一度公社とした場合一般社団法人への戻すことはできない。学会の法人化が一般的なのかという質疑もあったが、国からの補助を得ることや会計を明瞭にするという観点からも一般的である旨回答。

ヒアリング実施：公益社団法人（物理探査学会、石油学会、日本地下水学会）、一般社団法人（資源・素材学会）。

法人化により増加が懸念される事務作業の効率化は必須であり、以下の2点の具体策により対応したい。

（イ）学会データをセキュリティ担保した上でクラウド上に載せ、データアクセス権を幹事・各委員会役職者へデータ共有により問合業務の削減による業務の効率化を図ること。

（ロ）一般社団法人で必須となる損益計算書、貸借対照表、インボイス制度、電子帳簿等に対応する会計ソフト導入により効率化と人為的ミスの削減を図り業務量の削減を図ること。

◎スケジュール（案）：6/2 総会までに一般社団法人に必要な書類の準備。組織体制の構築。総会承認後、一般社団法人設立し、現行の任意団体から財産を移転。9月設立総会を開催予定。

#### 議題 6. 24年度総会・90周年記念式典の開催の件

① 90周年記念出版として会誌の一つをCCS特集号とし用語集の改訂をする。

② 費用は80周年時の金額（1,410万円）目安とし、賛助会員には相当の寄付額をそれぞれの所属先で予算化をお願いする。なお、現在石油技術協会基金（現在の残高619万円）は、不定期なイベント等（一例として、法人化費用、効率化のためのIT投資、事務所移転等の単年度収支に収まらない出費）に充当するものとし、現在残高（619万円）を維持する。

③ 賛助会員への依頼寄付額：N口の賛助会員の年度会費＋寄付額合計は、 $(2N+1)$ 口分とする。

④ 東大の複数会場を集約するため3月以降にHaseko-Kumaホール、福武ホールの追加予約を行う福武ホールの予約は学際情報学府委員会構成員の先生の紹介が必要につき紹介を依頼。

#### a. 記念出版：「CCS特集号の編纂と用語集の改訂」

内容：これまで刊行した会誌から選考した論文や講演、新たな論文及び講演、CCSに係る用語集

発刊形態（案）：会誌年6号の中の一つを特集号あるいはプラス1で出版する。

特集号にすると販売できず、別冊にする方向で進んでいる。売上は出版経費に充てる予定。

CCSの論文を執筆するか、既存の論文をまとめたものとするか今後調整が必要。

編集作業（案）：通常の編集委員に加え、記念出版編集委員を募り設置。新たな論文や講演の編集作業と編集済みの論文・講演の選考作業、必要に応じ加筆修正等の追加編集作業が発生。

・検討事項：ワーキンググループを早急に立ち上げる。

① 6月3日の記念式典にて目次あるいは内容の一部を紹介できるようにする。

② 出版時期（目標）は何時とするか？

③ 6月4日、5日の春季講演会からCCS特集号に掲載するものをどう選考するか？通常の会誌掲載の流れとの調整は？

④ 記念出版の形態を電子版とするか？印刷物とするか？

⑤ 印刷する場合部数は？オンデマンド印刷とオフセット印刷の分岐点はおおよそ 500 冊前後とのこと（大和印刷）。費用も大きく変わることに、印刷物の保管

編集委員の意見も賜るべく、1月23日に編集委員会の会議にも参加する。

の問題もあり要検討。

b. 特別講演会：テーマ及び依頼先

c. 懇親会：費用及び招待者数、全体参加者数の想定

d. 開催方式：

① 総会：ハイブリット（投票は web による事前投票）

② 特別講演会：ハイブリット（実開催、オンライン配信、オンデマンド配信）

③ 春季講演会：シンポジウム、個人講演：オンライン・オンデマンド

ポスター発表は PDF をギャラリー閲覧できるよう掲示するか？

学生優秀発表賞：CCS 委員会と技術委員会での調整をどうするか？

④ 体制：オンライン配信の自主運営＋支援業者？

オンデマンド編集作業：自主編集 or 外部委託

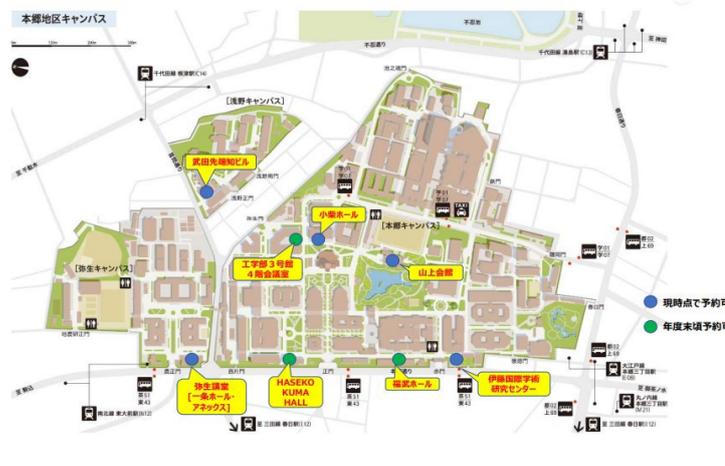
⑤ 見学会：探鉱技術委員会に確認

#### 議題 7. 令和 6 年度石油技術協会 会議

(質疑応答)

吉岡委員長：会場を仮予約をしている場所はどこか

宮田委員：地図上の青の部分、3月以降にならないと予約できない場所が緑であり、できるだけ集約できるようにしたい



### 3. 理事会報告

第 9 回の幹事会の内容が確認・承認された。

JpGU(地球惑星科学連合) 2024:

2024 年 5 月 26 日～31 日、幕張メッセで開催される。地球科学にまつわる数多くの団体が参加し、多くの来場者が見込まれる。

次の 2 セッションを共催

5/26 海底のメタンを取り巻く地圏・水圏・生命圏の相互作用と進化

5/28 地球温暖化防止と地学(CO2 地中貯留・有効利用、地球工学)

1/22 に小寺会長、島本副会長、生産技術委員会、CCS 委員会で打ち合わせ実

施予定。

(質疑応答)

吉岡委員長：各社、発表出来そうな話題がありそうか、感触を教えてください。

飯野委員：検討する。どんな話題が適切か。

吉岡委員長：地中貯留に関連すれば、幅広い内容が受け入れられると思われる。

**SPE - ATW**

2025年3月中旬開催, @首都圏

プログラム委員会：9/20, 10/20, 11/29

Workshop のセッションテーマ案(7 セッション+ポスターセッション+Keynote)。各セッション 1.5 時間、3-4 名の登壇者

CCS 委員会

個人講演なし、シンポジウムのみ実施(他委員会との調整)

CCS 関連の発表を対象に学生優秀発表賞(口頭およびポスター)を選定する案

春季講演会後の見学会

2017年には横浜を起点に IHI 社、JFE 社をまわるような行程だった。場所が近いところで 2~3 箇所回ることにしたい。

他の候補

火力発電所や水素研究関連(ENEOS,根岸/本牧)などが挙げられた。

(質疑応答)

舟橋委員：何人くらいの規模か

吉岡委員長：マイクロバス 1 台で廻れる規模(30~40 人)を想定している。

#### 4. 春季講演会のシンポジウム対応について

##### 1. 検討事項

(1) シンポジウムテーマ・講演題目

- CCS 委員会とは別開催として、それ以外のトピックでの単独開催を想定
- 「(仮題) トランジションエネルギーとしての上流開発と CN への展望」として動き出し各所へ打診。  
⇒ slb 社には了解頂き講演者等の調整を始めて頂いているが、他は固まっていない。
- 小委員所属の各社・各部署を中心にあたるも、ここ数年のシンポジウムのような趣きでの講演をできそうなところは、あまり出てきていない。
  - (規模) ~4 講演ほどでの規模の開催とする
  - (テーマ) より個人講演に近い(個別の技術フォーカス的な)講演も候補として講演者を確保し、テーマを講演に応じ調整する

などの対策を検討中。パネルディスカッションをする場合はかじ取りが難しくなるが、人数を絞る分、講演者間の質問やりとり等を充実させることでセッションを遂行するのも一案。

- 可能であれば大学機関からもご講演を依頼したい。漠然とのお願いで承諾しにくいいため、当方で具体的な内容案を持ち寄ってご相談。  
(例：継続的に取り組んでこられている CCS 以外のテーマや方向性の現状、現在の上流開発・そのトレンドについてのご意見スタンス、学生の動向の変化など)
- 守秘の関係等から、講演後の寄稿まで考えると望ましくない、という候補者も散見される。

⇒ シンポジウム当日の講演のみと限定することで対応可能か要確認。

## (2) 開催形態等

昨年同様 (= 実開催 + オンライン配信\* + オンデマンド配信)

\*ただしオンラインは省かれる可能性も残っており、2/21 理事会に向け確定予定

### (質疑応答)

#### 共有内容について

山崎副委員長：今後のスケジュールについて去年はどうなっていたか。

久々宇委員：正式な依頼状は3月中に発送していた。

久々宇委員：守秘の観点から断られた方々は、発表すること自体には拒否感を示していないのか。

山崎副委員長：その認識である。

久々宇委員：会誌掲載の有無の必要性については、運営幹事側から事務局に確認する。

(後日事務局より) 委員会側で会誌掲載はないことを了解した上でシンポジウム講演をお願いすることは事務局として了解する。シンポジウムでの配布は要旨集のみとなり、その後の会誌掲載はなしとして委員会で決定されれば事務局は特に異論等はないとのこと。

吉岡委員長：4名程度の登壇で規模を縮小、パネルディスカッションは省略。

やるとしても短時間という認識でよいか。

山崎副委員長：集まってきた題目によるがその認識。

飯野委員：INPEX ではこれからはじまるプロジェクトが多いので、プロジェクト単体について話すのは難しい。立場が上の方に、プロジェクトを横断するようなお話をお願いする形になるかもしれない。そうなるとテーマには沿えなくなるが要相談。

山崎副委員長：他社調整状況からも、個別プロジェクトを深掘りするのは難しいタイミングという印象を受ける。本来個人講演でいただいている部分を回すというのも一案。

荒木委員：JX 社では元々個人講演向けに用意していたテーマからの提供を検討している(やや技術寄り)。

#### その他質疑応答・コメント

吉岡委員長：パネルディスカッションを見据えた場合、ファシリテーターおよびパネラーを務める方あるいは委員を考える必要もあるが、古井先生は他の委員会から既に打診されているか。

古井委員：作井委員会も状況は同様であるが、現状シンポジウムで講演するという正式な依頼はない。

・各論的なテーマと全体のテーマが入り混じっていることは例年ある。

・地熱というのも考えたが、講演数を絞った中で地熱が占めるのは方向性として如何か？

⇒ 去年風力(再エネ)を入れたのは、秋田開催だからという側面がある。

⇒ 地熱は各社取り組みが近年進んでいるので4,5件の中に地熱が1件あっても違和感はない。

⇒ CCS 委員会の発表のアイテムに被らないように、メタハイ、地熱、水素関係の話題も考えられる

- ・学生の動向の変化などの提供：大学によって異なるイメージがあり、一般化するの難しい。研究紹介はできるが、シンポジウムに合うかは難しい。
- ・メタンハイドレート関連では、大学を退官されてからも METI の委員を継続されている先生や、退官後も各所で講演をされて精力的に活動されている先生が候補になると思われる。
- ・シンポジウム自体が小規模になることが予想される。スピーカーによっては開始掲載を省略する前提での依頼も視野に入れる。
- ・守秘の点については制約を確認した上で、緩和することで講演も増えると考えられる。オンラインでの記録を控えるなど、講演方法についてはこだわらないことも一案である。
- ・パネルディスカッションを実施するかは講演題目を見て判断すればいい。
- ・個人講演の受付も始まっているので、委員各位から周知いただきたい。

5. 次年度の委員会開催日・場所について  
第7回生産技術委員会の日程と場所  
2024年3月7日(木) JAPEX 本社

←	2023←			2022←	2021←
第1回←	5月	11日	(木)	JOGMEC← (ハイブリッド)	JOGMEC← →オンライン←
第2回←	7月	6日	(木)	INPEX← (ハイブリッド)	INPEX←オンライン←
第3回←	9月	14日	(木)	JX← (ハイブリッド)	JX←オンライン←
第4回←	11月	2日	(木)	九州大学← (ハイブリッド)	秋田大←オンライン←
第5回←	12月	1日	(金)	京都大学← (ハイブリッド)	東北大←中止←
第6回←	1月	19日	(金)	出光← (ハイブリッド)	CIECO←オンライン←
第7回←	3月	7日	(木)	JAPEX←	JAPEX←オンライン←

以上